

November 23, 2025

恵みの神 詩篇 103:8-9

103:8 主は あわれみ深く 情け深い。／怒るのに遅く 恵み豊かである。

103:9 主は いつまでも争ってはおられない。／とこしえに 怒ってはおられない。

一、恵みの時代

イエスはガリラヤの貧しい大工の子として育ち、「ラビ」の一人として世に現れました。「ラビ」というのは「律法の教師」のことですが、イエスは「律法」以上のもの、「福音」を教えられました。会堂ばかりでなく、野原でも湖でも人々を教え、飢えた人々に食べ物を与え、病気の人を癒やされました。イエスは預言者や教師以上のお方、世の救い主であることを示されたのです。ところが、人々はイエスを受け入れなかつたばかりか、十字架にかけ、死に追いやりました。しかし、イエスはよみがえられました。復活によって、ご自分が神の御子であることを証明されたのです。イエスは今、天で父なる神の右の座に着いておられます。そこは最高の権威の座です。人々は、イエスを、若くして殉教した悲劇の人物と見るかもしれません、じつは「王の王、主の主」なのです。

イエスが世に来られ、救いを成し遂げ、天に帰られてから再び世に来られるまでの間は「恵みの時代」と呼ばれます。コリント第二 6:2 にこうあります。「神は言われます。『恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。』

見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」

神は、永遠、不変のお方ですから、神の恵みは、旧約の時代にもありました。イエスがもう一度来られる新しい時代にも、当然続くわけですが、今が「恵みの時代」と呼ばれるには理由があります。それは、神の恵みがイエスによって形をとつて現れたからです。

ヨハネ 1:14 に「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」とあります。ここでの「ことば」は神の御子のことです。「人となって、私たちの間に住まわれた」とは御子が人として地上に生まれ、イエスと名付けられ、キリスト（救い主）として、私たちのために救いのみわざを成し遂げられたことを言っています。「私たちはこの方の栄光を見た」とありますが、人々が見たのは貧しく、低くなられたイエスの姿でした。イエスは、栄光とはほど遠い、辱めの極みである十字架にまで、低く降られました。けれども、弟子たちはイエスの貧しさ、低さ、十字架の恥の中に、人を救う神の恵みを見ました。イエスご自身も、十字架の時が間近に迫っているとき、「人の子が栄光を受ける時が来ました」（ヨハネ 12:23）と言っておられます。イエスが示された栄光は、そこに近づく者を擊ちのめし、弾き返すようなものではなく、人を照らし、温め、受け入れる「恵みの栄光」なのです。

旧約の時代にも、神の恵みは人々に表されていました。しかし、それは、神が神の民を導き、外敵から守り、家畜を殖やし、豊かな収穫を与え、健康や長寿を与えるなどの具体的な守りや導き、祝福によってでした。確かにそういったことは神の

恵みを表わしますが、恵みそのものよりも、恵みの産物といったものでした。人々は、神の恵みそのもの、恵みの神を直接見ることはなかったのです。罪の赦しを得るためにには、祭司によって律法に命じられた犠牲を献げる必要がありました。赦しは律法や儀式を通して示されてはいましたが、律法や儀式は人に赦しの確信を与えることはできませんでした。しかし、今は違います。イエスは罪の赦しのための犠牲となり、またその犠牲を献げて赦しを告げる祭司、天の大祭司ともなられたのです。律法や儀式を通してではなく、福音の言葉によって赦しを与え、聖霊によって赦しの確信を与えてくださるのです。

聖書は、恵みが人を救うと、はつきりと教えてています。エペソ 2:4-5 に「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださいださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです」とあり、2:8 にも、「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです」とあります。聖書は、私たちを救うのは「恵み」であると宣言しています。ですから、聖書は、「今日、もし御声を聞くならあなたがたの心を頑なにしてはならない」（ヘブル 3:7-8、13、15）と言って、この恵みを斥けてはいけない、捨ててはいけない、離れてはいけないと言うのです。この時代、今という時、今日という日に、神の恵みを受け入れ、恵みによって救われ、やがて、キリストが王として来られる日を、恵みによって待ち望みましょう。

二、恵みの世界

今、「恵み」という言葉を使っていますが、「恵み」とは何

でしょう。それはどのように定義すればいいでしょうか。「恵み」は、「あわれみ」や「いつくしみ」、「善」や「親切」、「寛容」や「忍耐」と同じように神の愛の一つです。「あわれみ」は苦しむ者に対する愛、「いつくしみ」は弱い者、小さい者に対する愛などということができますが、では、「恵み」はどんな愛でしょうか。それは、「それを見るに値しない者に対する愛」ということができます。

神はイスラエルを神の民として選び、他の民族以上に豊かな祝福を与えられました。しかし、それはイスラエルがそれにふさわしかったからではありません。モーセはこう言っています。「主があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、主は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隸の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。」（申命記 7:7-8）モーセ自身も、エジプトに行くようにと命じられたとき、「ああ、わが主よ、私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。……ああ、わが主よ、どうかほかの人を遣わしてください」（出エジプト記 4:10、13）と言って、すぐに神に従いませんでした。しかし神は、そんなモーセにも恵みを与えてくださったのです。

イエスが選ばれた弟子たちも、イエスの十字架を理解せず、イエスがイスラエルの王になったら、自分たちを右大臣、左大臣にしてもらおうとして、その地位を奪い合っていた人たちで

した。自分こそ、イエスの一番弟子だと誇っていたペテロでさえ、「私はイエスなどという人は知らない」とイエスを三度も否認しました。他の弟子たちは、イエスが捕まえられたとき、イエスを見捨てて逃げ隠れしています。日曜日の朝、女の弟子たちがイエスの復活を告げたのに、彼らは、復活されたイエスが彼らの真ん中に来られるまで、それを信じませんでした。しかし、彼らは何者も恐れず、大胆にイエス・キリストを宣べ伝える者になりました。神の恵みが彼らを変えたのです。

パウロは、かつてはクリスチヤンを迫害する者でした。彼は、自分の過去をふりかえってこう言っています。「私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。」（コリント第一15:9）別のところでは、自分を「罪人のかしら」と呼んでいます（テモテ第一1:15）。けれども、神は、パウロを選び、救い、パウロはどの使徒よりも、多くの地域で、多くの人々に、福音を伝える者となりました。それは神の恵みによるものです。パウロはこう言っています。「神の恵みによって、私は今の私になりました。」（コリント第一15:10）

人の愛は、多くの場合、「だから愛」や「だったら愛」です。「あなたは立派だから尊敬する」、「あなたは正しいから受け入れる」といったもの、また、親が子どもに「いい子だったら、かわいがってあげる」、男女が相手に「お金持ちだったら付き合ってもいいけど…」などと言うようなものです。条件つきの愛なのです。しかし、神の愛は無条件の愛です。それは、「だから愛」や「だったら愛」ではなく、「だけれども愛」です。罪ある者だけれども、悪に手を染めてしまったけれど、不従順な者だけれど、「わたしはあなたを

愛する」と神は言われるのです。これが恵みです。罪と悪から救われたいと願う者を、神は愛し、罪を赦し、悪からきよめて、従順な者にしてくださるのであります。

神の愛が「無条件の愛」であるといつても、それは善も悪も、正義も不正も、聖いものも汚れたものも、何でも大丈夫というような、いい加減なものではありません。罪ある者の罪を赦すにはその罪を引き受けなければなりません。汚れた者をきよめるためには自分が汚れを受けなければなりません。不従順な者を受け入れるには大きなリスクが伴います。私たちだったら、そんなことはしません。しかし、神は、そのリスクを承知の上で、条件に適わない者を、あえて愛されたのです。神の「恵み」の愛は、「覚悟の愛」なのです。

キリストを信じる者は、そのような恵みの愛で救われました。そして、同じ恵みによって生涯を送り、世を去るときも、同じ恵みによって天に迎え入れられます。私たちの生涯は恵みで始まり、もっと大きな恵みへと進んでいくのです。使徒たちが書いた手紙のほとんどは、はじめに「恵みと平安」が祈られ、最後は、「恵みがありますように」との祈りで結ばれています。それは、信仰の生活のすべてが神の恵みによることを示しています。恵みによって救われた者は恵みによって生きるのです。信じる者はこの恵みの世界に生きているのです。

三、恵みの神

詩篇 103 は、この神の恵みを歌い、恵みの神をほめたたえている詩篇です。7 節は、「主は あわれみ深く 情け深い。／怒るのに遅く 恵み豊かである」と、高らかに宣言しています。そして、神の恵みがどんなに力強いものであるかは、3-5

節に語られています。「主は　あなたのすべての咎を赦し／あなたのすべての病を癒やし、あなたのいのちを穴から贖われる。／主は　あなたに恵みとあわれみの冠をかぶらせ、あなたの一生を　良いもので満ち足らせる。／あなたの若さは　鷺のように新しくなる。」神が恵み深いお方、恵みの神であるというのは、神が、ただ優しく、温かいお方であるといったことはありません。神の恵みは、なんとなく「ほんわか」したもの、心を和ませるだけのものではないのです。それは、罪の赦しをはじめとして、健康や、物質的な必要、また生きる活力など、あらゆる祝福で私たちの人生を満たすものです。しかも、その恵みは途切れることなく続き、次の世代まで引き継がれます。17節に、「主の恵みは　とこしえからとこしえまで／主を恐れる者の上にあり／主の義は　その子らの子たちに及ぶ」（17節）とある通りです。

信仰者の人生は、恵みの神に信頼して歩むのですが、試練にあったり、健康が損なわれたり、必要なものが満たされなかったり、大きな失敗をして自分の罪に苦しむこともあるでしょう。そのようなことによって、神の恵みを見失ってしまうことがないとはいえません。そんなときは、詩篇 103:2 の言葉を思い起こしましょう。「わがたましいよ　主をほめたたえよ。／主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」心静かに過去をふりかえるとき、恵みの神が、どんなに自分によくしてくださったかが、かならず思い起こされます。人の目には、嫌なこと、不幸なことと見えるものの中にも、神の恵みがあったこと、恵みの神が、どんなときも共にいて支えてくださったことが分かるはずです。神の変わることのない、大きな恵みを再発見して、恵み豊かな神への信頼を、もう一度新しく

して歩み続けたいと思ひます。

(祈り)

父なる神さま、あなたは、恵み豊かな神です。キリストの恵みによって救われ、救いの中に保たれているばかりか、その恵みがもたらす祝福の中に生かされていることを感謝します。今週迎えるサンクスギヴィング・デーに、あなたの恵みを一つひとつ数え上げ、感謝のうちに過ごすことができますよう助けてください。多くの人が、今が恵みの時代であり、恵みの世界があり、恵みの神がおられることを知らないでいます。私たちがそのことを人々に証しできますよう、あなたの恵みによって強くしてください。主イエスのお名前で祈ります。